

2022年12月10日(土)

老球の細道705号

神は細部に宿る (Gods in the details)

会津バスケットボール協会 室井 富仁

髪が細部に宿るようになってから人生が少しずつ変化してきた。特に髪の毛に関わる分野では顕著である。床屋さんに行く回数が1か月に1回だったのが約2か月に1回と激減した。また床屋さんで髪チョッキンしてきた時は、特に冬場は頭皮が直接寒気にさらされるために風邪予防の帽子をかぶるようになった。若い頃はいい加減に付き合ってきた髪がどれだけ重要か、少なくなって初めてありがたさに気づかされている。

髪が細部に宿るようになってからも一つ気づいたことがある。「神は細部に宿る」という箴言である。別名「真実は細部に宿る」とも言われる。仕事や作品の細かい所に妥協せずにこだわってこそ、素晴らしいものが出来上がるという意味で使われる。すぐれたこだわりは、非常に細部にあるために一見ではわかりにくいことが多い。が、細かいところ、見えにくいところだからと言って手を抜くべきではないことを論じている。

この言葉を最初に世に示したのはフランスの小説家ギュスターブ・フローベル(1821-1880)。彼の作品は細部にいたるまで描写がしっかりして、細かく書きながらもどれも無駄なくまとまっているという評価である。また、この箴言を特に有名にしたのはドイツの建築家ミース・ファン・デル・ロース(1886-1969)と言われている。近代建築三大巨匠の一人である。大学を出ないで地元の職業訓練校で学び、「少ないことはより豊か」とシンプルさを追求した建築物を制作し、精神的な豊かさを求めたという。

スポーツの世界においてもこの言葉は光を放つ。今回のサッカーワールドカップの日本戦においても考えさせられる場面がいくつかあった。一つは、クロアチア戦での勝敗を決したPK戦である。最も簡単に得点を決めることができる場面であるが、サッカーはここで天国と地獄が決まる。人は「勝負は時の運である」と言うが、PK戦を想定して、クロアチアのキーパーは日本選手のキックの特徴を事前にスカウティングしていたという。また、普段からキッカーの目、肩の向き、軸足のつま先の向きなどから、どの方向にキックするのかを予想しながら練習していたと思うが、このような細かい所まで意識しながら、こだわりながら準備することで、あのような大一番の勝負で力を発揮するのだろう。

もう一つはスペイン戦である。あのピッチ内1mmでのアシストキックである。1mmの粘りが日本の歴史的な勝利に結びついた。「1mmをおろそかにする者は、1mmに泣く」という新しい箴言が生まれるだろう。

バスケットボールにおいても最も簡単なフリースローの1本が天国と地獄を分けることがある。特にレベルが上がれば上がるほど実力の差はない。勝敗を決するのは、細かいところ、簡単なこと、見えにくい地味なところをいかに確実に、粘り強く、心を込めて遂行できるかどうかにかかってくる。

歓喜の「Oh my God!」は日常から「Gods in the details」。